

瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ（カタバミ科）の奇形花

久保田 信¹・梅本信也²

Aberrant flowers of *Oxalis corniculata* (Oxalidaceae) in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University

Shin Kubota¹ and Shinya Umemoto²

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459）

² 京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所（〒649-3632 和歌山県東牟婁郡串本町須江）

はじめに

瀬戸臨海実験所構内・畠島・小丸島で開花するカタバミ *Oxalis corniculata* Linn.の花柱型について、長花柱型を含む3型が同時に出現した唯一の地点の構内合併処理室の北部と西部域で、2006年9月以降2008年12月まで頻度分布の調査を実施した（久保田・梅本, 2006, 2007, 2008）。それ以後も観察・調査を継続しているが、その間、稀な奇形花に遭遇したので今回記録する。

結果と考察

数千本余りの花を検査し、わずか3回だけ以下の様な3本のカタバミの奇形花に遭遇した。

1. 2008年4月13日。6花弁、萼4枚で、3本の短い雄しべと雌しべ、並びにほぼ同等の高さの5本の雄しべと6本の雌しべを有す（図1）。
2. 2009年4月24日。花も萼も雌しべの数も、高低の雄しべも4本ずつ有す（図2）。
3. 2011年8月6日。4花弁、4萼（図3）。



図1-3. 2008年(1), 2009年(2), 2011年(3)に京都大学瀬戸臨海実験所構内で遭遇した奇形花

このような奇形花が出現した理由として、高等植物の花器では花弁数や萼数は厳密に制御されているが、正常な分化を促す物質分泌に関係する遺伝子に突然変異が生じ、共に葉から起源した萼と花弁の相互関係に異常が発生し、今回の調査で確認された様な奇形花が発生した可能性がある。ただし、環境要因による非遺伝性の形態異常の可能性も無視できないので、今後の検討が必要である。

引用文献

- 久保田 信・梅本信也. 2006. 瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ長花柱型カタバミ（カタバミ科）の分布. 瀬戸臨海実験所年報, 19: 38-39.
- 久保田 信・梅本信也. 2007. 瀬戸臨海実験所構内ならびに田辺湾畠島・小丸島における長花柱型カタバミ（カタバミ科）の分布様式. 瀬戸臨海実験所年報, 20: 33-35.
- 久保田 信・梅本信也. 2008. 瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ（カタバミ科）花柱3型の季節消長. 瀬戸臨海実験所年報, 21: 37-38.